

WELgee

Join us!

難民とともに日本社会の未来を築く WELgeeファミリーの一員になりませんか？

マンスリーサポーターを募集しています。

私たちの活動の特徴は、「支援」ではなく
「個人個人の人生への中長期的な伴走」を行なっていることです。
「中長期的な伴走」とは、個々の難民の方が日本社会と繋がるための取り組みであると同時に、
日本社会が彼らと関係を築いていくための活動でもあります。

WELgee だけではなく、こういった価値観を体現する人が増えてゆくことで、
社会は異なる背景を持つ様々な人たちがより生きやすいものになるはずで
生まれの国や人種、宗教などの境遇にかかわらず、
未来を築くことができる社会を、私たちとともに実現しませんか。

Join us!

＼ WELgeeファミリーのご登録はこちらから ／



特定非営利活動法人 WELgee (ウェルジー) 英語表記: Nonprofit Corporation WELgee

所在地 〒150-6027
東京都渋谷区恵比寿 4丁目20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー 27階
デジサーチアンドアドバイザーズ内「COEBI」

メール info@welgee.jp

SNS @welgee @WELgee_Japan WELgee (ウェルジー) @WELcome+refugee

理事 渡部カンコロンゴ 清花、安齋 耀太、安西 翔平

監事 東樹 敏明、井上 智映子

職員 渡部カンコロンゴ 清花、山本 菜奈、林 将平、渡辺 早希、坂下 裕基、武居 裕介

顧問弁護士 小野田 峻

顧問行政書士 長岡 由剛

発行日: 2021年12月28日 (写真: 若井 智史、デザイン: 平船 瑞生)

協賛

yogibo
SOCIALGOOD



WELgee

WELgee Annual Report 2020-2021
2020年度 ウェルジー活動報告書

WELgeeの挑戦を応援してくださっている、みなさんへ

5年目の活動報告書を手にとってくださってありがとうございます。

2020年度は、日本中・世界中が大きく揺れた年でした。WELgeeにとっては、法人化当初からのメンバーを含めた数名が卒業をしたり、私が妊娠・出産を挟んだり、コロナという外的変化に加えて、メンバーの人生の大きな変容も経験した年でした。コアメンバーの学生時代にカオスの中から始動した組織にとっては、それぞれの人生のフェーズ変容は揺らぎでもあり成長でもありました。コロナ禍でもうだめだと思ったときの力強い資金支援、余裕がなくなったときコミュニケーションのつまづきにヒントをもたらしてくれた客観的な視点、プロボノさんの得意と経験を活かした参画……。

「WELgeeはジェットコースターみたいだ」と伴走支援してくださっている方の言葉がありました。答えのない挑戦へのプロセスはある意味そういうものかもしれません。それでも伴走し続け、励まし、信じ、手を差し伸べてくださる応援者の方々の存在があって、また1年間歩むことができました。だからこそ私たちも、インターナショナルズ(私たちは難民の仲間たちのことをそう呼んでいます)たちの人生の、ジェットコースターのようなフェーズにもクリエイティブに伴走し続けられる、そんな存在でありたいと思います。

小さな組織が大きなビジョンに向かって進む道のは、ときには危なっかしいし、無謀に思えるかもしれませんが、「2021年度は、WELgeeとこんな挑戦をしてみたいな」というワクワクを、感じていただけるような報告書になっていたら嬉しいです。国を失っても人生を諦めない若者たちが描く未来に、新たな選択肢をまた共に生み出して行きましょう!



WELgee代表 渡部 カンコロンゴ 清花

Contents

■ WELgeeとは？	01	■ 協賛・ご寄付の紹介	10
■ 2020年度のハイライト	03	■ 協働事例の紹介	11
■ 事業報告	05	■ 財務報告	12
■ 職員が振り返る2020年	07	■ 2021年度のWELgee	14
■ Team WELgee	09		

本書では難民認定申請をしている人のことを「難民認定申請者」と呼び、WELgeeとともに活動をする難民認定申請者のことを「志を持つ、多国籍な仲間」という意味を込めて「インターナショナルズ」と呼んでいます。



■ WELgeeとは？



WELCOME + refugee
～難民の人々も歓迎できる社会に～

Vision 自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会

Mission 志を発掘しつながりを広げ、未来をデザインできる仕掛けをつくる

Approach

難民たちが自身のキャリアや人生の目標を追求できる道筋を、多様なセクターとの協働を通じて目指しています

WELgeeは、政府にしか権限のない難民認定という既存の方法にとらわれず、様々な民間セクターとの連携により、難民一人ひとりの専門性やスキル、情熱に焦点をあて、安定した法的地位を取得可能な就労機会に繋げる取り組みを行なっています。

■ 難民ではなく「人材」として（難民認定だけではないオルタナティブ）



具体的には、就職のためのキャリア教育機会の提供や日本語能力やIT技術などのハードスキルの開発、企業との面談やマッチング、就職後の在留資格変更サポート等を行なっています(詳しくは5P・6Pへ)。

日本の難民問題

■ 日本の難民認定申請数と認定数



(難民認定申請者と認定者の推移/出入国在留管理庁の統計より作成)

Issue

■ 難民申請者が経験する法的・社会的な壁



※2 明日生きていくための仕事

■ 2020年度のハイライト

2020年度は日本に暮らす難民の方にとっても、WELgeeにとっても厳しい年になりました。コロナ禍以前から法的にも社会的にも脆弱な立場に置かれていた難民の方々ですが、コロナ禍の影響により失業を余儀なくされたり、雇用契約は続いていてもシフトが著しく減り困窮したりする方が増えました。

WELgeeでは、このような社会情勢の変化や不況下でも、難民の方が安定した雇用と法的地位をもって、自分の未来を築くための盤石な法的・経済的・社会的基盤を得られることを最重要課題としました。JobCopassをフルリモートで提供できる体制を整え、100名の難民の方にオンライン上でプログラムを届け、結果として上場企業を含む4社でのマッチングを生み出すことができました。さらに、実質不可能と言われていた東京出入国在留管理局での在留資格変更も実現いたしました。

数字で見る WELgee

- ・ 専門性を活かした就職を実現したインターナショナルズ …… 10名
- ・ 就職を実現し安定した在留資格を獲得したインターナショナルズ …… 2名
- ・ これまで繋がってきたインターナショナルズの総数 …… 191名
- ・ キャリアに伴走したインターナショナルズの数 …… 62名
- ・ イベント開催数 …… 15回
- ・ イベントに参加したインターナショナルズの数 …… 100名
- ・ 企業人との新しいつながり …… 1443名
- ・ インターナショナルズと直接出会った日本の人たちの数 …… 360名
- ・ WELgeeと他団体の協働数 …… 26件
- ・ メディア掲載 …… 20件

Web記事	11件
新聞	3件
雑誌	3件
出版	2件
テレビ	1件



1 コロナ禍への事業面での対応

■ 伴走体制のオンライン化

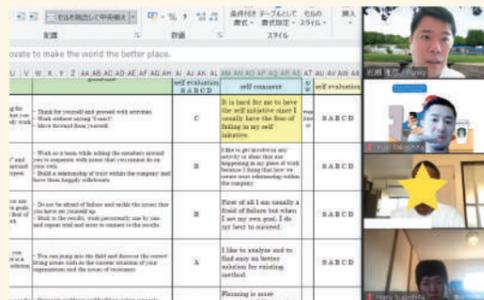
創業以来、求職中のインターナショナルズへの面談や、日本の方との交流機会などは対面で行うことが多かったのですが、コロナ禍において移動に制限がかかり、対面での活動を行う困難さにWELgeeも直面しました。その一方で明日を生きるための派遣の仕事が無くなった、シフトが著しく減ったが会社からの手当がない、などのSOSが頻繁に届くようにもなりました。そこで、これまで対面だった面談やキャリアについて考えるイベント、企業との面談などを全てオンライン化し、コロナ禍でも場所を問わず伴走できる体制を整備。その結果、オンラインでの在留資格について学ぶ講座やキャリアに関わるイベントを100名の難民申請者に届けることができました。さらに、首都圏から離れた地域に暮らすインターナショナルズからの相談も受けられるようになり、全国から難民の方々をつなぐオンライン上の仕組みを作ることができました。

■ 法人施策の強化

コロナ禍において、日本の雇用市場も大きく変化しました。難民人材の受け入れは、企業にとっては中長期的な人材投資の意味合いが強いのですが、コロナ禍での対応を迫られる中で人材採用の予算が削られ、難民人材の雇用を予定していた案件がほぼ全て白紙に戻りました。とはいえ、信頼して協働できる企業の存在はプロジェクトにとっては欠かせません。WELgeeでは、これまで部署別に行っていた法人向けの施策を見直し、戦略的に法人開拓や法人リード育成を行えるように法人施策を強化しました。

■ 資金面での苦戦

コロナの影響で、事業収益の柱であった企業研修の収益が前年度比85%減少しました。就労伴走事業も、景気の悪化や、企業の動向変化等の外部環境に影響を受け、案件が大幅に減少しました。2020年の後期には活動を支える資金繰りに苦戦しましたが、温かい応援と共にいただいた大口のご寄付や、いくつかの助成金により、活動を再構築し継続できる目処がたちました。ピンチに陥ったとき、多くの方に支えられているということを実感する出来事でもありました。



オンラインでの伴走の様子

2 組織内部のコミュニケーションを見直す機会

今年は、組織内部のコミュニケーションを見直す大きな機会もありました。背景には、チームメンバー間で度々発生する、いくつかの非機能的なコミュニケーションパターンがありました。非機能的なコミュニケーションパターンとは、個人の認知の偏りや、個人のコミュニケーションの癖の組み合わせにより生じるコミュニケーション課題の傾向のことです。

非機能的なコミュニケーションパターンを解消するために、外部の専門家に依頼し、10ヶ月間に渡って組織コンサルテーションを実施してもらいました。「決められないことへの不安」「対話ではなく答えを求めてしまう」など200個以上の課題が抽出され、最終的に個人々が対話的コミュニケーション能力を獲得していくことを重要な目標と据えました。

10ヶ月間のコンサルテーションの中で、組織内で起こりやすいコミュニケーションのつまづきと、それを解決した自分たちのやり方をセットにしたツールキットを複数作成し、理論をポートフォリオとして蓄積してゆきました。スタッフそれぞれが個人の認知の偏りに自覚的になり、その偏りをチームで補ってゆくような文化をつくるきっかけを得ました。

社会課題に向き合うだけでなく、それぞれが組織と向き合い、自分自身とも向き合いながら、ひとつひとつ乗り越えて行けるWELgeeでありたいと思います。

3 チェンジメーカーへの飛躍（採用後の活躍・在留資格変更2件目の成功）

2020年12月、行政書士・企業様の協力の下、難民認定申請者の不安定な在留資格から、安定して暮らし働ける在留資格への変更の2件目の事例を作ることができました。在留資格の変更によって、当事者は先の見えない不安定な状況から脱却し、先を見据えた生活をできるようになり、採用企業は人材の雇用の維持や海外出張が可能になります。今回、ネットワーク構築を行うIT企業でエンジニアとして採用されたSさんの在留資格を「技術・人文知識・国際業務」に変更することに成功しました。

WELgeeは、彼らの法的安定性を実現するだけでなく、彼らが母国の課題解決に一石を投じる事業活動やアクションを行う「チェンジメーカー」となる状態を目指しています。これまで採用された方々の中には、チェンジメーカーとして活躍する人たちが現れ始めました。詳しい事例はP5をご覧ください。

3 「恩送り」の連鎖 / Sempai Session が始まる

ヤマハ発動機に採用されたインターナショナルズの提案で「Sempai Session」が始まりました。

Sempai Sessionとは、すでに日本で就職しキャリアを築きはじめている“先輩”のインターナショナルズが、現在日本で新たなキャリアに向けて頑張っているインターナショナルズへ、自身の考えや経験を共有する機会のことです。累計4回開催し、55名が未来を切り拓いてきた先輩から、日本でのキャリア構築についての具体的なアドバイスを受けました。



各事業紹介

2020年度の成果

- 採用に関心を持っていただいた企業数…………… 53社
- 雇用成立…………… 2件
- JobCopassに登録した難民申請者数…………… 20名
- 在留資格変更…………… 1件
- 伴走したインターナショナルズの数…………… 30名
- インターナショナルズとの面談数…………… 120回
- 企業とインターナショナルズとの面談の数…………… 13回
- お試し雇用成立…………… 2件

各事業の詳細

PROJECT

01 就労伴走事業

コロナ禍により、日本の雇用市場と難民申請者たちの状況が大きく変化しました。多くの企業様で国内の働き方改革や海外事業展開の転換が急ピッチで進み、その中で難民人材受け入れの話が、ほぼすべて白紙に戻りました。同時にインターナショナルズから、生計を支えていた派遣の仕事が無くなった、シフトが著しく減ったが会社からの手当てはない、などのSOSが多く届きました。難民申請中の合法的な在留資格(ビザ)と就労許可を以ってしても、多くの方は末端労働の現場で働いており、雇用契約すらない人もいれば、社会保険について知らない人も少なくありません。彼らの就業者、労働者としての脆弱な立場が一気に露呈した出来事でした。しかし、私たちは、短期的な仕事ではなく長期的なキャリアに伴走するJobCopassにさらに力を入れました。一人ひとりが本来もつ強みや可能性をとことん活かす「働く」を実現していくことで、生活や雇用、法的ステータスを確立するだけでなく、社会や周囲のピンチを救えるヒーローとして輝ける未来をつくりたいのです。実際、数年前にWELgeeを通じて就職した人材たちは、コロナ禍で、エンジニアとして遠隔操作技術を駆使したロボットを開発するなど、社会をより良く変革すべく立ち上がっています。

実質不可能と言われた品川入管での在留資格変更も成功し、数年越しに自分らしく活躍するロールモデルたちが生まれてき、さらにはオンライン対応に切り替えたことで、全国各地からJobCopassに参加する人材が増えてきています。

そんな人材たちの魅力をより手触り感ある形でビジネスパーソンにお伝えし、一緒に働くイメージを持っていただくべく、「Meet Refugee Talents! ~世界の激レアさんをご紹介~」という記事コンテンツの発信や、企業人と難民人材のオンライン交流会の定期開催もはじめました。



チェンジメーカーの事例

CASE 01 元医者・政治リーダーが、母国と日本の医療従事者とをつなぐNGOを設立

東アフリカの母国で政治団体のリーダー・医師として働いていたMさん。彼の夢は、アフリカの医療発展に携わること。WELgeeの伴走により、様々な医療従事者と出会う中で、アフリカの医療に貢献する方法として、公共衛生に関心を持った。神奈川県との職員と出会い、私立の総合病院での勤務と同時に、公衆衛生を学べる社会人大学院に入学した。現在、総合病院で出会った仲間とともに、アフリカと日本の医療従事者とをつなぐNGOを運営中。



CASE 02 元起業家兼英語教師が、アフリカ進出事業にて日本と現地をつなぐブリッジ人材として活躍

政治的迫害が原因で日本に逃れたAさんは、教師経験があり、誰からも愛されるムードメーカー。東証1部上場のバイクメーカーのアフリカ事業にて、日本側でパイプとなれる人材のニーズがあると聞き、Aさんを紹介したところ人柄・経験が総合的に評価され、国費留学生を含む候補者の中から社員として抜擢された。

現在、アフリカでデリバリー事業を実施する業務提携先でのオペレーション・マネージメントを行う希少なスタッフとして活躍中。



各事業の詳細

PROJECT

02 Tech-Up 事業

Tech-Up 事業とは、「短期間で広い技術力と自走力を身につける」ことを目標とし、プログラミング技術を学びたい難民の方に、熟練のエンジニアがマンツーマンでプログラミング技術を教える取り組みです。

2020年度は20年以上ソフトウェア開発をしてきた経験豊富なエンジニアの方と共に、2名に対してプログラミング技術習得の機会を提供しました。



一方で、プログラミングの知識や経験、経済的・社会的状況が全く異なる受講生に対して単一のカリキュラムを提供することの難しさ、また完走率が低いことから、事業の継続を見直し、2021年3月で事業を終了しました。今後は、外部のステークホルダーと協働を通じて、プログラミング技術を含めたインターを提供して行きます。

PROJECT

03 セミナー事業

昨年度から順調に走り出した研修・講演事業でしたが、コロナ禍により対面での開催が困難となり、ゼロからの再スタートを余儀なくされました。だからこそ、難民アンバサダーとの対話が参加者にどんな変化をもたらすのか、どんな仕掛けづくりをすれば参加者の内なる情熱やリーダーシップを引き出せるのか、とことん本質を考え抜く時間を得ました。

過去に研修を実施した企業の社員さんが「プロボノ」としてチームに参画し、参加者や人事の目線を取り入れながら研修の企画開発に携わったり、実際にパイロットを実施したりと、運営体制にも広がりをつくりながら、さまざまな仮説検証を小さく行う一年でした。



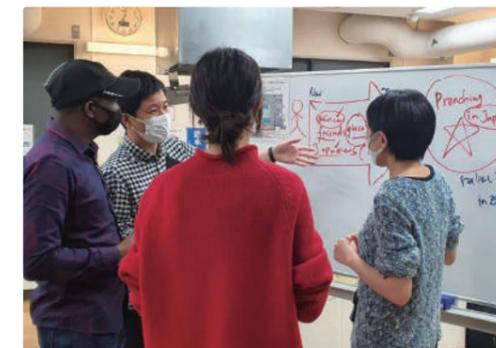
今までの「難民問題」や「リーダーシップ」「多文化共生」といったテーマに加え、「グローバル人材のキャリア形成」や「仕事と社会問題のつながり」など、人々の「働く」を見つめ直す場づくりにも挑戦しました。

PROJECT

04 サロン事業

昨年度までに34回開催してきたWELgeeサロンは、コロナの影響で対面での実施が困難になったことから、2020年6月よりオンライン開催を始めました。計9回のサロンを開催する中で、オンラインだからこそできるコンテンツは何だろう、サロンを開催することの意義は何だろうなど、様々な問いに対しサロンに関わるインターナショナルズとともに意見を出しあい、改めてサロンの存在意義を問い直せたのはこの時期だからこそできたことかもしれません。

「個性ある一人のひと」としての難民当事者と参加者同士の目を見開くような出会いが、「難民」という一つのカテゴリーへの認識やイメージの転換をもたらし、一人ひとりの個性を活かした共創が生まれていくこと。その出会いの場がWELgeeサロンであるということを再確認したうえで、オンラインという特性を活かし、地域にとらわれない新たな繋がりが生まれたり、インターナショナルズ個人にスポットをあてて、少数者にこれからの人生ビジョンや社会を語りあったりすることができたのは大きな一歩となりました。



■ 職員が振り返る 2020 年

STORY

01 WELgee 初となる女性の難民のジョブマッチング!

就労伴走事業部統括
山本 菜奈

WELgee として初めて、女性の難民の就職事例を作ることができました。日本に来日する難民の 8 割が男性、女性はたったの 2 割に留まっています。難民状態にある女性は、母国での迫害に加え、女性であるがゆえの生きづらさ、来日後の行くあてのない生活で、危ない目に巻き込まれる人も多い現状です。

そんな過酷な日々を生き抜く Z さんに会ったのは三年前。母国ではデジタルマーケターやビジネスコンサルタント、コーチとして活躍していた彼女は、フランス語、アラビア語、英語が流暢で、抜群のリーダーシップとコミュニケーション力がありました。現在彼女はこれまでのビジネス経験を生かし、大手企業にてデジタルマーケティングの職種で活躍をしています。



STORY

02 緊急シェルターに滞在していた家族の成長

PR 部統括
林 将平

緊急シェルターに泊っていた一家の娘さんたちが、学校に通いはじめました。家族を支えるために、お父さんは生コンクリートを製造する会社へと就職。「どんな事が起きても、この子の教育を一番に考えたい。」娘たちの未来を何よりも大事に考えるお父さんは、家族のために必死に日本語を学びながら働いています。そんな彼らと出会ったのは 3 年前。WELgee が都内で緊急シェルターを運営している時でした。当時下の子は 3 歳、上は 5 歳の姉妹を連れてその一家は、新宿駅付近のベンチで寝ていたこともありました。日本語もままならなかった彼女たちも、学校への入学、時間を重ねるにつれてぐんぐんと日本語が上達してゆきました。大黒柱であるお父さんへのキャリア支援とともに、家族が安心して日本で暮らせるような支援も同時に行っていました。



STORY

03 コロナ禍で気づいた繋がり大切さ

リソース部門統括
渡辺 早希

この 1 年は、とても揺らぎの多かった年。コロナの影響を受けたことや人員体制の変化により、既存の事業を見直す必要がありました。そんな中、WELgee の職員と同じ、あるいはそれ以上に、財務状況を気にかけてくれ、「職員はちゃんと食べているのか?今の事業モデルじゃ続かないだろ!こういう形態にしたらどうだ?」と事業を続けることがいかに大事かを伝え続けてくれたインターナショナルズの存在は、自分たちが活動を続ける意義そのものに気づききっかけになりました。

また、これまでやってきた事業の方向性に迷ったときには、一緒に原点に立ち返りながら、新たな取り組みを共に生み出してくれるインターン・プロボノ、寄付者の方々をはじめとする WELgee ファミリーに助けられた場面が多くありました。

職員の数も少なく、小さな組織ではあるものの、自分たちの周りがあるリソースはもっと開かれているのだと改めて実感できたことが今後の活動の幅と深さを広げていく上での一番の気づきです。



STORY

04 ITエンジニアという職種が照らす「みんな」の未来

就労伴走事業部統括
坂下 裕基

コンゴ民主共和国出身であるクリスさんは、ネントリーズ株式会社という商用車専門オンラインプラットフォームなどの事業運営を行う企業に IT エンジニアとして就職をしました。彼は自分のスキルや人となりを伝え、ネントリーズは彼のスキルや人柄をしっかりと確認し、就職に至りました。この事例は個人的に非常に嬉しく、また今後の就労伴走チームの動きに示唆をあたえる案件だったように思います。

道半ばではあるが、今後様々な課題を双方が乗り越えていく場面は出てくると思います。そして、クリスさん自身もスキルを磨き続けなければ人材として事業運営への価値提供を行うことはできません。そういった状況であることは間違いありませんが、企業にとって必要な人材である、という判断が生み出した好例です。

助けなければいけないという「社会性」だけを頼りにせず就職を勝ち得た、WELgee が目指すビジョンに通ずる一つのモデルケースになっていく、そう確信しています。



STORY

05 コロナが与えた採用マーケットへの大きな影響

就労伴走事業部統括
武居 裕介

コロナが日本に広がるまでは、日本では売り手市場が続き、様々な業界に置いて「人手不足」という採用マーケットが続いていましたが、2020 年から一転、コロナの影響により売り手市場から買い手市場へと採用マーケットが大きく変化しました。それにより一種の流行りによって賑わっていた業界が一気に採用抑制、そして今まで堅実にビジネスを行っていた企業（特にオンラインでのビジネス）がコロナの影響をさほど受けずに採用活動は維持、もしくはこのタイミングは良い人材を確保できるチャンスとみて採用活動を活発化したと感じています。

そういった意味では、WELgee にとってインターナショナルズが安定的に活躍できる企業層をコロナが浮き彫りにさせてくれたようなもので、よりマッチ度が高い企業層と出逢える確率が上がり、そういった企業層との出逢いが極端に増えた年だったと思います。

具体的には、Web で世界のマーケットにプロダクトを販売している企業やアフリカにマーケットを広げようとしている企業など、インターナショナルズの語学力や現地の独特な文化の見聞・知識が生かせるポジションの可能性のある企業層との出逢いが増えた一年だったと思います。



Team WELgee

コアメンバーであるスタッフを紹介します。

フルタイム職員



代表理事・代表
渡部 カンコロンゴ清花

フルタイム職員



就労伴走事業部統括
山本 菜奈

フルタイム職員



PR部統括
林 将平

フルタイム職員



リソース部門統括
渡辺 早希

パートタイム職員



就労伴走事業部
キャリアコーディネーター
坂下 裕基

パートタイム職員



就労伴走事業部
キャリアコーディネーター
武居 裕介

監事



株式会社グロービス
東樹 敏明

監事



株式会社グロービス
井上 智映子

顧問



顧問弁護士
小野田 峻

顧問



顧問行政書士
長岡 由剛

**インターンや
プロボノを
随時、募集中!!**

私たちと一緒に、誰もが
自らの境遇を乗り越えて未来
を築ける社会を作りませんか？

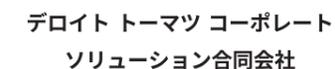
最新の求人情報は、
右のQRコードを読み取って
こちらからご確認ください！



■ 寄付をいただいた方々のご紹介

2020年は7団体と461名の個人より単発のご寄付を、132名の個人より継続的な寄付を賜りました。皆様からいただいた寄付は、インターナショナルズ一人ひとりへの長期的な伴走のための運営費やその他の活動資金として使わせていただきました。温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

● 法人



● 個人の方々

太田晃様、田中宣子様、阿部悦子様、白石章二様、木下洋一様、沼田康資様、上鶴亜紀子様、犬塚雅大様、大野達也様、高坂将哉様、菅原聡様を始め、593名よりご寄付をいただきました。

1日 **30円**~

**WELgee ファミリーになって
難民の若者たちに「未来の投資」をしませんか？**



紛争・差別・迫害などから逃れ日本にやってくる「難民」と呼ばれる人たちがいます。希望をかけて逃れてきた先の日本でも追い込まれ「自分は役に立たない人間だ」と可能性を閉ざしている人たちがいるのが現状です。実は彼らは将来的な故郷の担い手たちなのです。そんな若者たちの直面する壁を崩し、未来に投資するマンスリーサポーターになりませんか？



Thank you for sponsoring us

Special Column

コラム 代表 渡部の産休 Column: Jess's maternity leave

個人としても、組織としても、妊娠出産を迎えるというのは初めてのことでした。スタッフ全員学生から参画したWELgeeにとっては、どこかで現実味がなく、ずっと先の人生のイベントのような気もしていたところもあったかもしれません。チームのみんなにドキドキしながら報告したとき、本当に喜んでくれたあの瞬間を今も覚えています。

とはいえ、WELgeeでは初となる産休。制度がどうなっているのか、調べてみたら知らなかったことだらけでした。代表という役職では、政府が支える育休制度が使えないことも初めて知ります。

育休がなくて、赤ちゃんがいる中でどうやって働けるんだろう・・・中間支援団体やお子さんをもちながら働かれてきた他団体の代表さんへのヒアリングもさせていただきました。妊娠中期には、NPO法人マドレボニータ、NPO法人ピッコラーレの職員さんが、妊娠出産での心や身体の変化について職員向けにスペシャルレクチャーをしてくださりました。保育園が代表だと入りづらいということで心配もあったのですが、こちららも、先輩方にいろいろ教えていただきながら徹夜で書類を書いたことが懐

かしいです。3ヶ月目から保育園に入れ、はいれ中は保育園、土曜日や祝日は一緒にオフィスに行き職員やインターンのみんなに遊んでもらったりして過ごしています。

個人としても団体としても、多くの学びを得たので、今後、いつ誰が子どもを何人産みたいとなっても、WELCOMEな体制をより作ってゆきたいです。たくさん支えてくださったみなさん、ありがとうございます！

(文責・渡部)



■ 協働事例のご紹介

2020年度は26の企業・団体との協働を実施しました。難民として逃れた先の日本でも、再び夢に向かって挑戦できる機会を作るために、大学機関と協働をしインターナショナルズの推薦を行いました。また、日本で暮らすために必要不可欠な日本語学習の機会を提供するための協働や、難民の方の状況を知っていただくためのチャリティの共催、さらには大手企業社員の方の長期受け入れなど、団体の垣根を超えて幅広い協働を行いました。

協働実績

- ・ イベントの共催 3件
- ・ キャンペーンの共催 1件
- ・ プロボノの協力 30人以上
- ・ プロジェクト協働 3件
- ・ 広報協力 1件
- ・ 法人 11件
- ・ インターナショナルズへの学習機会の提供 3件
- ・ 組織コンサルテーション 1件



新しい可能性が
次々と生まれています!

CASE 01 School of Health Innovation × WELgee

代表渡部が登壇したシンポジウムで出会った首藤神奈川県副知事。WELgeeの活動に関心を寄せてくださり、母国で産婦人科医をしていた難民のMさんをご紹介しました。自身も医師である首藤さんは、Mさんのこれまでの人生や日本で実現したい夢に共感をしてくださり、開学したばかりのヘルスイノベーションスクールの関係者の皆さまとのつながりを作ってくださいました。Mさんはヘルスイノベーションスクールへの通学と同時に、私立の総合病院で勤務をはじめました。様々な人々の力を借りながら、公衆衛生のスペシャリストを目指して頑張っています。



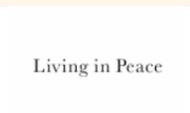
CASE 02 至善館 × WELgee

世界全体への深い問題意識を持ち、自ら次代を切り拓かんとするビジネスパーソンを対象にした社会人大学院、至善館。WELgeeの立ち上げに関わったメンバーのつながりから、開学前に至善館の野田学長とお話する機会をいただき、WELgeeの関わる難民申請者の方の推薦枠をいただきました。至善館開学から3年続けて、WELgeeの推薦する難民申請中の若者たちが学びを深めています。



CASE 03 Living in Peace × WELgee

認定NPO法人Living in Peace難民プロジェクトが運営する「LIP-Learning」は就労や生活に欠かせない日本語の学習支援を行なっています。2020年度は、WELgeeからも就労に向けて意欲的に取り組む3名のインターナショナルズを推薦させていただき、オンラインで日本語を学んでいます。



CASE 04 CROSS FIELDS × WELgee

2020年11月から2021年2月までの間、NPO法人クロスフィールズが主催する、企業人が本業を活かして国内のNPOや社会的企業とともに課題解決に挑むプログラムである「国内留職」の受け入れ先団体となり、東京海上日動火災保険株式会社の社員1名を受け入れました。国内留職を通じて一職員として参加した社員の方は、団体を取り巻く社会情勢の激動や事業・組織の再編成などが重なり、多くの変化が生じた激動期の中でも、長年培った営業経験と抜群の人間力で、大いに存在感を発揮してくれました。

CASE 05 コニカミノルタ株式会社 × WELgee

2020年11月から2021年3月にかけて、コニカミノルタ株式会社が実施する社会事業創造型リーダーシップ育成研修「アクセス」のパートナー団体として参画しました。「アクセス」とは、コニカミノルタが次世代リーダーを育成する社内研修です。コニカミノルタの社員が業務時間の一部を利用してセミナー事業部・Tech-Up事業部に参画し、3ヶ月間でサービス立案、プロトタイプングまでを実施しました。3ヶ月間、WELgee以外の方々との事業創造活動と内省を繰り返す研修を通して、WELgee内では得られないアイデアや気づきが多く得られました。

CASE 06 株式会社ちえもの × WELgee

2019年3月より「株式会社ちえもの」の代表中川さんをファシリテーターとして迎え、組織内部のコミュニケーションの見直しと、個々の関係構築能力の向上のためのコンサルテーションを行っていただきました。「決められないことへの不安」「対話ではなく答えを求めてしまう」など200個の課題を抽出し、最終的に対話的コミュニケーション能力を獲得していくことを重要な目標と据えました。10ヶ月間のコンサルテーションの中で、組織内で起こりやすいコミュニケーションのつまづきと、それを解決した自分たちのやり方をセットにしたツールキットを複数作成し、理論をポートフォリオとして蓄積してゆきました。スタッフそれぞれが個人の認知の偏りに自覚的になり、その偏りをチームで補ってゆくような文化をつくるきっかけを得ました。

加盟団体 (4団体 / 2021年10月時)

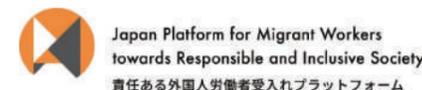
・新公益連盟



・なんみんフォーラム



・責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム (JP-MIRAI)



・J-FUN



受賞履歴

- ・ INCO 主催 Woman entrepreneur of the year Award (女性起業家アワード) 2018 グランプリ獲得 (2018年3月)
- ・ ForbesJAPAN 主催 30under30- 日本を変える 30歳未満の30人 - に
代表渡部がソーシャルアントレプレナー部門で選出 (2018年8月)
- ・ ForbesASIA 主催 30under30 (アジアを変える 30歳未満の30人) に
代表渡部がソーシャルアントレプレナー部門で選出 (2019年4月)
- ・ WIRED Audi INNOVATION AWARD 2019 Social Activity に代表渡部が選出 (2019年4月)
- ・ チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞 入賞 (2020年12月)
- ・ 平成30年度 中央ろうきん若者応援ファンド 採用団体
- ・ 平成29年度 東京都教育委員会助成金・スポーツ文化館チャレンジアシスト助成金
- ・ 東京都・青山スタートアップアクセラレーションセンター (ASAC) 第3期採択
- ・ NPO法人 ETIC・Makers University 第1期採択
- ・ NPO法人 ETIC・SUSANOO 第4期採択
- ・ アメリカン・エクスプレス・サービス・アカデミー参加
- ・ NPO法人 ETIC 社会起業家イニシアティブ 採択

2020年度 活動計算書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで
単位：円

経常収益	1 受取会費	正会員受取会費	25,000	
		賛助会員受取会費	2,470,116	
	2 受取寄附金	受取寄附金	12,729,981	
	3 受取民間助成金	統合事業	3,000,000	
		その他	7,390,000	
	4 受取公的助成金		4,176,000	
	5 事業収益	統合事業	0	
		啓発事業	2,839,955	
		職業紹介事業	2,215,455	
	6 雑収益	啓発事業	169,980	
	その他	272,437		
経常収益 計			35,288,924	
経常費用	1 事業費	(1) 人件費	給料手当	6,346,000
			法定福利費	667,224
		(1) 人件費 集計		7,013,224
		(2) その他経費	業務委託費	866,536
			謝金	60,000
			印刷製本費	6,351
			会議費	29,392
			旅費交通費	288,805
			通信運搬費	76,754
			消耗品費	12,022
			租税公課	19,317
			支払手数料	152,005
			新聞図書費	1,599
			雑費	178,259
		(2) その他経費 集計		1,691,040
	1 事業費 計			8,704,264
	2 管理費	(1) 人件費	給料手当	8,348,000
			法定福利費	1,434,861
			福利厚生費	435,000
		(1) 人件費 計		10,217,861
		(2) その他経費	業務委託費	1,803,637
			謝金	0
			印刷製本費	77,028
			会議費	1,005
			旅費交通費	267,271
			通信運搬費	1,166,882
			消耗品費	2,583
			水道光熱費	44,572
			賃借料	18,900
			諸会費	40,000
			租税公課	266,772
			支払手数料	143,810
			新聞図書費	12,589
			支払報酬料	1,086,912
			広告宣伝費	60,386
			雑費	180,166
			減価償却費	130,111
		(2) その他経費 計		5,302,624
	2 管理費 計			15,520,485
	経常収益 計			24,224,749
当期経常増減額			11,064,175	
経常外収益			10	
経常外収益 計			10	
経常外費用			0	
経常外費用 計			0	
当期経常外増減			10	
税引前当期正味財産増減額			11,064,185	
法人税・住民税及び事業税			70,000	
当期正味財産増減額			10,994,185	
前期繰越正味財産額			8,504,325	
次期繰越正味財産額			19,498,510	

2020年度 貸借対照

令和3年3月31日現在
単位：円

資産の部	1 流動資産	現金預金	23,891,610	
		未収収益	33,069	
		預け金	2,768,838	
	1 流動資産 合計		26,693,517	
	2 固定資産	有形固定資産	建物	130,111
		土地	1,079,556	
		有形固定資産 合計	1,209,667	
2 固定資産 合計			1,209,667	
資産 合計			27,903,184	
負債及び正味財産の部	負債	1 流動負債	短期借入金	317,382
			未払金	1,593,133
			未払法人税等	70,000
			預り金	424,159
		1 流動負債 合計		2,404,674
	2 固定負債	長期借入金	6,000,000	
	2 固定負債 合計		6,000,000	
	負債 合計			8,404,674
	正味財産	前期繰越正味財産額		8,504,325
		当期正味財産増減額		10,994,185
正味財産 合計		19,498,510		
負債及び純資産 合計			27,903,184	

2021年度のWELgee

複雑で外部環境の変化の影響も受けやすい難民の課題を解決してゆくには、WELgee 単体の力では及びません。大きなエコシステムの中で、最も効果的に力を発揮できる場所を担うべく、すでに社会に存在する様々な資源を活用したり、他のアクターや個人のお力もお借りして、WELgee が強みを発揮できる部分により磨きをかけてゆきます。



1 育成機会の充実

「自分の経験やスキルを活かして、難民として生きてゆく以外の方法を日本で作り出す」という仮説は、在留資格変更を通じて実証することができました。しかし、日本で人脈も日本語能力も全てが無い状態のインターナショナルズが、困難を乗り越え、就職活動へと一歩踏み出す状態に至るまでには、長期の伴走が必要です。WELgee では、インターナショナルズが安定した就労機会を得るまでに必要な育成機会を拡充してまいります。具体的には、自分がどんなキャリアを歩みたいのかの自己理解を深めるための機会や、日本語や IT 技術等のハードスキルの育成機会などを、外部の団体と協働しながら提供してまいります。

2 民間・公的セクターとのさらなる協働

一人ひとりの難民への日本語学習や職業能力開発、キャリアカウンセリング、企業への定着伴走は、私たちだけでは実施することはできません。行政や企業、NPO などがセクターを超え、互いに強みやノウハウを持ち寄ることで、個々のニーズに沿った伴走を行うことができます。WELgee では、引き続き民間企業、公的機関、個々のビジネスパーソン、そして難民認定申請者たちとのパートナーシップを育み、多様なステークホルダーと協働してまいります。

3 盤石な財務基盤構築

WELgee の中核事業である就労伴走事業は、成果が出るまでに非常に長い時間と労力がかかる事業です。インターナショナルズの育成から採用、定着までにかかる時間は平均で1~2年と非常に長く、収益化することが難しい事業でもあります。21年度は、インターナショナルズの育成を強化し、個々に合ったキャリアへの伴走を安定して行うことができるように、WELgee の強みを生かしたファンドレイジングを実施し、財務基盤を整えます。